

新金属協会 シリコン部会 2014年夏季状況説明

① 2013年の実績

1-1) 2013年の世界半導体市場は、PC向け需要は停滞したものの、スマートフォンやタブレット向けデバイスの堅調な拡大が続き、デバイス毎に多少の差はあったが、米国やアジア向けを中心に伸張した。その結果、WSTSによれば、2013年は前年比4.8%増の3,056億ドルと史上初めて3,000億ドルの大台を突破した。

1-2) 一方、2013年の世界シリコンウエーハ市場は、スマートフォンやタブレット等の需要拡大に伴い、年初を底に回復して増加基調が続いたが、季節的な調整等により第2四半期をピークに年後半は減速した。SEMI出荷統計によれば、2013年のシリコンウエーハ出荷は、面積で前年比微増の91億平方インチとなり、ドル表示の金額では円安の影響もあって、前年比13%減の75億ドルとなった。その結果、単純平均単価は、前年比13%減の0.83ドル/平方インチに低下した。

1-3) 当部会集計の国内高純度シリコン統計によれば、2013年の多結晶国内生産は、夏場以降の半導体向けの低調により生産調整を実施したことから、前年比27%減の8,000トンとなった。

一方、単結晶国内生産は、夏場以降の需要低迷と、加盟会社の方針に則った海外生産の増や工場閉鎖の影響もあり、前年比5%減の6,358トンとなった。

国内単結晶販売については、減産と同様の理由により、前年比9%減の7,132トンであった。うち、内需が前年比2%減の3,472トン、輸出は海外ファウンドリー等の調整の影響を受け、前年比16%減の3,660トンであった。その結果、輸出比率は前年の55%から51%に低下した。

② シリコンウエーハ各社の2013年決算（連結ベース）

2-1) 当部会メンバー各社の2013年連結シリコン売上高合計は、6,319億円となり、前年比4%増と3年振りの売上増となった。しかしながら、2009年以降は低レベルで推移している。

2-2) 設備投資は、各社共に大規模な能力増強投資は実施せず、高品質化の投資が主体であり、前年比23%減、売上高比5.3%の337億円となった。

2-3) 研究開発費は、先端デバイス向け微細化対応、次世代ウエーハ開発などを継続しており、前年比10%増、売上高比4.2%の265億円となった。

また、設備投資と研究開発の合計については、売上高比9.5%の602億円となった。

2-4) 営業利益は、前年比40%増、売上高比5.4%の342億円となった。

③ 2014年の状況・見通し

3-1) 2014年の半導体市場は、マクロ経済の緩やかな回復が継続すると共に、スマートフォン・タブレットの伸張継続、PCのマイナス成長幅の縮小、車載用途の拡大等により、電子機器市場の安定成長が見込まれることから、緩やかに成長すると予想する。

3-2) WSTSは6月公表の春季予測において、2014年世界半導体市場は、前回予測の3,166億ドルから上方修正し、3,254億ドルの前年比6.5%増を予測している。また、2013年から2016年までの年平均成長率は4.7%になると予想している。

2014年の地域別成長率は、アジア9.3%、欧州7.9%、米国2.1%、日本4.0%（円ベース）と市場が拡大するアジアを中心に全地域で成長を見込んでいる。

また、2014年のIC製品別成長率は、メモリー7.5%、ロジック7.1%、アナログ9.1%、マイクロ0.9%の成長を予測しており、スマートフォンやタブレットに使用されるプロセッサやメモリー等を中心に伸張を予想している。

3-4) SEMI出荷統計によると、2014年は例年の季節調整も無く、300mmを中心に1Qから拡大基調であり、2Qのシリコン出荷面積は25億平方インチを超え、2010年3Qに記録した過去最高を上回り堅調に推移している。

3-5) 経済産業省非鉄金属統計月報による国内シリコンウエーハの生産・販売・在庫動向によれば、SEMI出荷統計と同様に各口径共に年初から拡大傾向にある。

直径別では、300mmの生産・販売は、年間ベースではここ数年横這いの状態が続いていたが、過去のピークを記録した2011年に近づく増加基調となっている。

3-6) 当部会は、2014年のウエーハ需要について、ファウンドリーの調整終了と2Xnm以細の先端品需要の拡大による半導体市場の緩やかな成長に牽引され、300mmを中心に需要が拡大し、200mm以下についても底堅く推移するとした年初の予想通りに進行していると考えている。

国内単結晶生産は、5月までの実績推移と夏場以降の需要見込みを考慮し、年初予測の6,676トン並の生産を見込む。

単結晶販売についても、輸出を中心に堅調に推移しており、年初予測の7,488トン並の販売を見込む。

多結晶需要についても、半導体向けの需要回復と、太陽電池向けの市場拡大の継続により、増加してゆくとの見方は変えていない。

④ 終わりに

当部会では、加盟一社にて発生した事故の重大性を真摯に受け止め、安全操業確保の諸施策を継続して実施し、安全管理体制の強化に取り組んで参ります。

当部会加盟各社は、様々な要因からここ数年続いたシリコン産業の成長停滞が、今後再成長に向うことを期待している。アベノミクス効果による円安の進展や成長戦略の推進により、その恩恵を受けてはいるものの、世界的に割高な電力料金及び電力需給問題などの課題も抱えている。尚、当部会は新金属協会を代表して電力多消費産業11団体合同で、国に対して電力料金値上りの抑制策を要望しているところである。

また、電子機器のローエンド品拡大による低価格化、ファブレス・ファウンドリー市場の益々の拡大による需要変動の増加、国内デバイスメーカーの更なる事業再構築に伴う需要構造変化や、益々厳しさを増す国際競争といった市場環境の中、生産性向上や合理化などによる不断のコスト低減を進めると共に、ウエーハの安定供給にも努めなければならないと考えている。

メモリーやロジックなどの最先端デバイスへの品質対応や、将来のスマート社会の実現にも貢献するため、シリコン業界の安定的成長と安定的収益を確保する必要がある。

<今後のシリコン業界の課題>

- ① 安全管理強化への取り組みと安全操業の確保
- ② シリコン需要構造の変化やスマート社会への貢献・対応
 - 1) 最先端デバイスへの品質対応
 - 2) 不断のコスト低減
 - 3) 電力料金値上げへの対応と電力安定供給の確保
 - 4) 再投資可能な収益確保
- ③ 停滞から成長への復帰

半導体産業の中長期的な発展の為、各社それぞれの経営課題としての対応はもとより、原材料メーカーや半導体メーカーとの関係強化により課題解決に努めて参る所存であり、半導体産業ひいては我国ハイテク産業全般に対して、必要不可欠な材料を担う当シリコン業界の健全な発展の為に、引き続きご支援を賜りたくお願い申し上げます次第である。

－ 以上 －